

ヒートポンプ導入の省エネ効果について

中長期気候目標研究委委員会の「気候危機回避のための各政党政策の評価」を読んで気になったのは「化石燃料からヒートポンプに変えると70%以上の大幅な省エネルギーとなる」(43ページ左下段落)というくだりです。

ヒートポンプには電力が必要なので、事業所や家庭で単位での効率ではなく、発電所における発電効率、送電ロスも評価して比較するべきで、70%以上にはならないでしょう。また、[日本共産党の「2030 戦略」\(2021年9月1日\)](#)でも、「企業でも家庭でも、多くは3～4年で、建物など耐用年数の長いものでも10年で投資した省エネ費用の回収ができる」とあるが、これは勘違いだと思われます。3から4年で償還できるのは病院などの大口の事業所に限られ、それでも15年経過の設備更新時に、過大な設備を見直して、省エネルギー転換化とするくらいでしょう。

私も地中熱を利用した省エネルギー技術の開発に関わってきたが、容易ではない。政治の力で推進しないとなかなかです。その意味でこの論文はよかったと思う。

(福井支部 宮本重信)